

## 大学生の自我同一性に関する研究 (4)

— 10年前の学生との比較 —

返田 健・大井修三・鈴木 壮\*

心理学研究室

(1995年6月30日受理)

## On The Study of College Students' Ego Identity (4)

— Comparison between 1982 and 1993 Year's  
Students of Gifu University. —

Takeshi SORITA, Shuzo OHI and Masashi SUZUKI\*

Department of Psychology, Faculty of General Education, Gifu University  
and \*Department of Physical Education, Faculty of Education, Gifu University.

### Abstract

The purpose of this study was to clarify the change of college student ego identity with the time by comparing between 1982 and 1993 year students of Gifu University. The subjects were 888 (1982 yr.) and 1043 (1993 yr.) students. They were administered a questionnaire concerning ego identity diffusion.

The main results were as followed:

1. Both students in general didn't diffuse, but 1982's students were lower scores in Identity Diffusion and Diffusion category, and higher scores in Authority Diffusion and Diffusion of Ideal categories than 1993's.
2. Resulting from comparison in each item of the questionnaire, 1993's students showed the higher diffusion scores in 16 items than 1982's, while 1982's in 5 items, indicating that 1993's students showed the diffusion more strongly than 1982's.
3. Factor analysis showed 1993's students had higher factor loading, indicating that the variation of 1993's students ego identity come to be smaller than of 1982's.

---

\*岐阜大学教育学部体育学科

## はじめに

人が人間として成熟していくために取り組まなければならない課題として、エリクソン (Erikson, E. H.) はアイデンティティ (Identity) という概念を提唱した<sup>(1)(2)</sup>。その後このテーマに多大な関心がよせられ、多くの研究者によってさまざまな角度から研究がすすめられてきている (鑑ほか1984, 1995参照)<sup>(3)(4)</sup>。

本研究者たちもこのテーマに関心を持ち、青年期のアイデンティティについて調査研究をすすめてきた (大井ほか1986, 返田ほか1986, 1992)<sup>(5)(6)(7)</sup>。その中ではエリクソンが明らかにしているように、青年期、特に、その典型を生きている大学生においては、「自分とはなにか」「自分はいかに生きるか、生きるべきか」などについて思い悩むアイデンティティの拡散が見られ、その中からそれぞれのアイデンティティを形成し、確立をしていくものと考えた。そして、そのような考え方に基づいて、大学生のアイデンティティについて、「アイデンティティの拡散-達成」という一次的なアプローチから調査研究を進めてきた。

その結果から、現在の日本の大学生の状況を反映していると考えられる岐阜大生のかなりの部分は、エリクソンが指摘したような、青年期に危機に直面し、拡散の状態のなかからこの危機を克服して、アイデンティティを達成していくという経過をたどらないことが示唆された。この原因の一つに時代や社会情勢の変化があり、それによって部分的にはアイデンティティの問題で悩むことはあるにしても、全体的にはアイデンティティの拡散を示す学生はそれほど多くはないように思われた。

この点に関して、ホール, G. S. 以来の「青年期危機説」に対して、青年期が必ずしも危機的な時期であるとは限らず、平穏なうちに青年期を送る青年が数多くいるとするドゥーバン, E. らの研究<sup>(8)</sup>、前回の論文で扱ったマーシア, J. E. から始まったアイデンティティ・ステータスの研究<sup>(9)</sup>においてフォークロジャー型の青年の増加などを考えると当然のことともいえよう。

前回の調査は1982年に入学した学生を対象として行われた。それから11年後の1993年に入学してきた学生に対して同一の調査を試みた。この間の10年余りの歳月の経過から、本学に入学してくる学生たちに変化がみられるかどうかを検証してみる必要を感じた。

## I 研究の目的

1982年の入学生と、その後10年の間隔を隔てた1993年の入学生について行った「アイデンティティの拡散調査」の結果について比較検討を行うことを主な目的とする。

この10年間で社会情勢の面でも、学生たちの状態にもかなりの変化が見られる。1980年代は日本はオイルショックなどから生じた不況から脱出し、高度経済成長にともなう空前の経済的な繁栄のなかにあり、かつてない豊かさを享受していた。一方で社会の全般的な保守化が進行し、現状を肯定する姿勢が強まり、日本人のあいだに強い自己満足の空気を生みだしていた。

このような情勢のなかで、教育現場では管理教育的状況が強まり、荒れる中学生が問題になり、校内暴力、家庭内暴力、登校拒否などが増加の一途をたどった。

すでに70年代の後半から青年の保守化がいわれ、若者の安定志向がとりざたされるように

なっていた。この時代の状況は居心地のよい「いま」とどまり続けようとする若者を描いた「モラトリアム人間」<sup>(10)</sup>、アパシー、無気力等の大学生を中心にみられる病的な問題を扱った「キャンパス症候群」<sup>(11)</sup> さらに「やさしさのゆくえ」<sup>(12)</sup> などとして論じられた。

79年にはじまった共通一次は80年代に入って定着し、偏差値重視の体制が浸透していく。「モラトリアムにたどりついたときにはすでに、ヒエラルヒーのなかでの自己の地位と可能性とは、固定されたものだと感じてしまう。制度化されたモラトリアムは、若者たちが日常性を離脱して様々な試行錯誤を行い、自らの方向性を決定する自由な役割実験の場ではなくなってしまった」<sup>(13)</sup>、「この社会を支配している達成原理をゆるやかに解体していくよりも、「自己中心的、ナルシズム的に働く自他を傷つけない、小市民意識としてのやさしさ」に収束していったのではないか。」<sup>(13)</sup> というような状況のなかに当時の学生たちはいた。

90年代に入って日本経済もその成長のスピードが鈍り、いわゆるバブルがはじけ日本経済は失速する。学生にとっては売り手市場であった就職が厳しさを加えるようになる。

大学入試も共通一次からセンター試験に代わり、多様化してきているが、80年代にすでにはじまっていた管理教育や受験体制、学歴偏重や学校至上主義などの価値観などは90年代に入ってもますます強められている。

また、情報化社会の進行によって、若者たちの身のまわりに情報が氾濫し、現実の社会の中でよりヴァチャルリアリティの中に生きているような状況も出現しつつある。

このような社会-教育状況をくぐり抜け、育ってきた青年たちは、無理しない、我慢しない、対立しない、気にしないとといった言葉でその特徴が記述され、自分の心や人との関係において無意識のうちに摩擦を避けようとする「摩擦回避世代」<sup>(14)</sup> などといわれている。

これらのことによって、大学に入学してくる学生も10年前にくらべかなり変わってきているように感じられるが、われわれの作成した調査ではどのようにとらえられるのだろうか。

## II 方 法

### 1 調査用紙

本研究者たちによって作成された「アイデンティティ拡散調査」(返田ほか1986を参照)を使用した。「アイデンティティ拡散調査」はエリクソンが明らかにしたアイデンティティの8領域について、青年期危機(課題)の中核的領域である「自我同一性対同一性の拡散」については、「同一性確立」と「同一性拡散」の側から、他の7領域については拡散の側からの質問57項目で構成されている。

### 2 調査の実施時期と対象

調査は1982年と1993年の4月入学時の体育実技のガイダンスの折りに、ガイダンスの終了後の時間に、各学部別に行った。調査の対象は、表1に示すとおりである。

この10年間に女子学生の数が各学部とも増加している。とくに農学部は男女の比率が逆転している。

表1 調査対象

学部	1982年入学			1993年入学				合計
	男性	女性	合計	男性	女性	性別不明	合計	
教育	107	157	264	92	194	7	293	557
医	54	21	75	37	25	1	63	139
工	332	15	347	422	38	11	471	818
農	145	56	201	86	127	3	216	417
全体	638	249	888	637	384	22	1,043	1,931

### III 調査の結果とその考察

#### 1 全体的な傾向と男女の差

ここではまず本学の学生のアイデンティティへの取り組みの傾向を明らかにするために、彼らの質問項目への反応の傾向から見ていく。

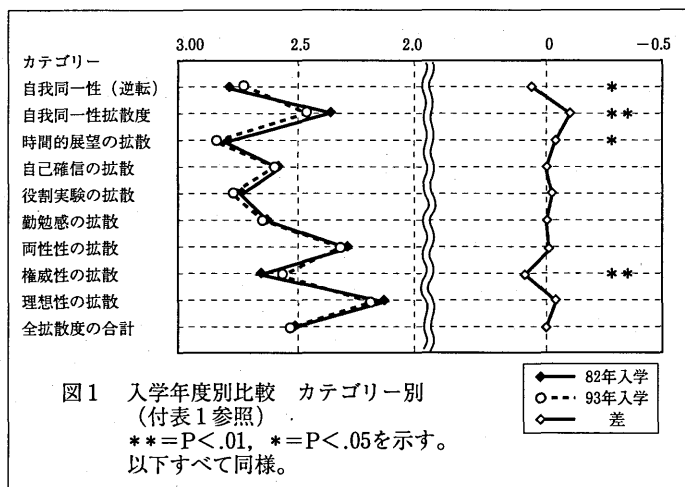
(なお本文にはみやすくするため主な図のみを示し、表は付表として巻末に掲載する。)

##### (1) 各カテゴリーごとの検討

エリクソンのアイデンティティの9つの側面、そして全57項目の総合計の平均である「全拡散の平均」を加えた10カテゴリーについて検討した。

これらのカテゴリーについてみていくと(図1参照)、10カテゴリーとも確立と拡散の中間である3.00をこえるもの、すなわち、拡散の側に傾いているものはない。自我同一性を確立の方向から測定した「同一性確立(逆転)」のカテゴリー(註1参照)では、82年入学生、93年入学生とも同一性確立の側からみるとそれぞれ3.22と3.28と3.00を上回り確立の方向を示している。

註1 「自我同一性の確立」の領域についての質問は肯定の方向から行っているが整理の際には逆転している。したがって図では数字が大きいほど同一性の未確立の程度が大きいことになる。他の領域は数字が大きいほど拡散の程度が大きいことになる。



これらのことからこの調査の結果からは、全体的には青年期が拡散から確立の方向に向かうといわれているが、この調査対象の学生たちは日常的な意識のなかでは拡散をかならずしも意識してはいないとみられる。

各カテゴリー別の傾向についてみると、「時間的展望」「役割実験」「自我同一性の確立」などの

カテゴリーが他とくらべて相対的に拡散度が高く、「理想性」「両性性」「同一性拡散」などのカテゴリーの拡散がとくに低い。拡散が相対的に高いカテゴリーが彼らの意識のなかで日常的により意識されている事柄であると考えられる。

「同一性確立(逆転)」「同一性拡散」のカテゴリーの相関を求めてみると  $r=0.51$  とかなりの相関は認められるが、高い相関とはいえない。このことから、拡散度が低いことが必ず

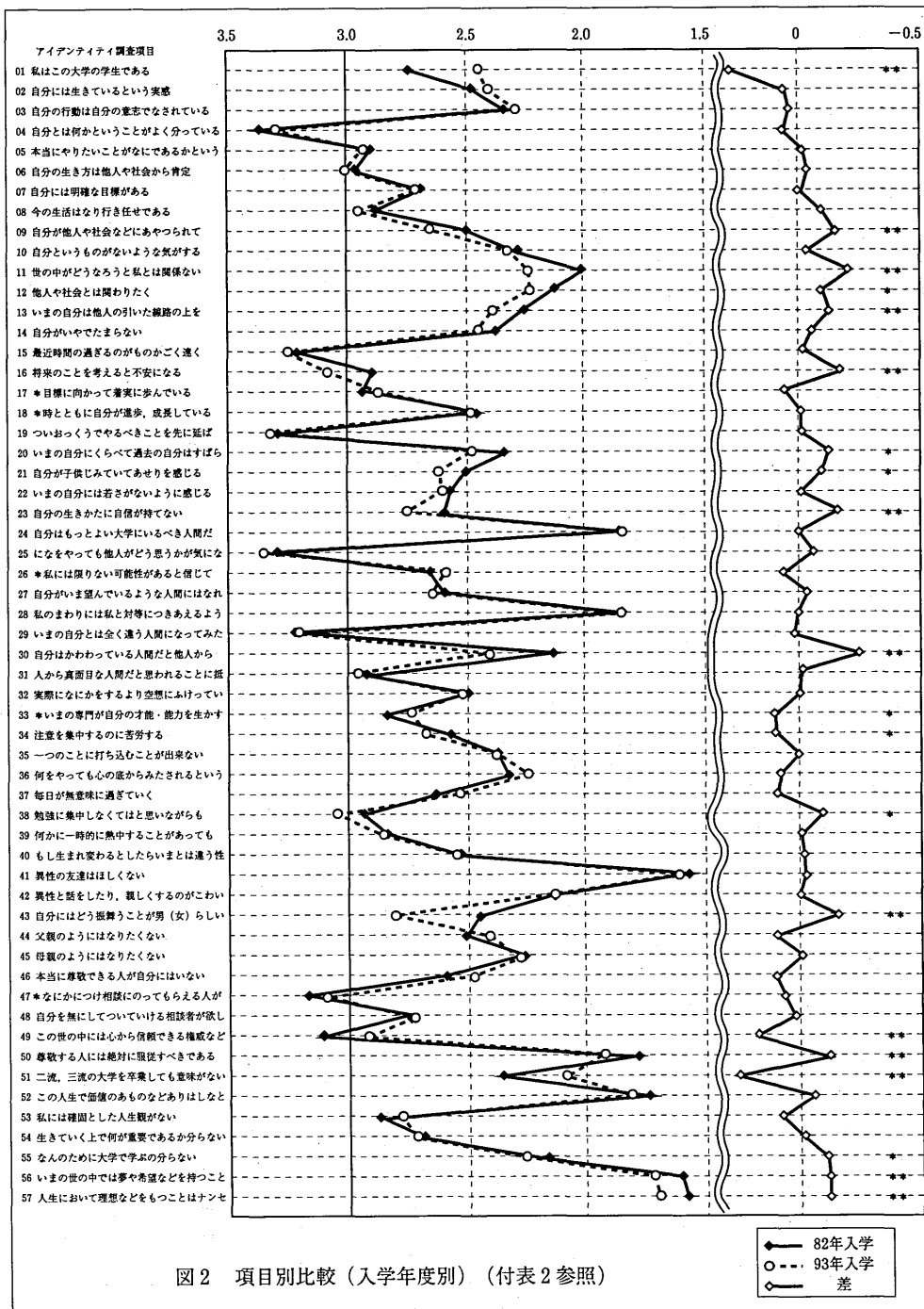


図2 項目別比較(入学年度別)(付表2参照)

しも同一性が確立しているともいえないといえよう。

(2) 各項目ごとの検討

カテゴリーの面からみると拡散の傾向はみられなかったが、それぞれの項目別にみていくと平均値が3.00を越えて拡散の傾向を示している項目がいくつか認められる。項目04, 15, 19, 25, 29, 47などである(図2参照)。

これらの項目のなかで04は「自分とは何か」というアイデンティティの中核的な事柄を問う項目であるだけに注目される。また、29の「今の自分とはちがった自分になってみたい」という一種の変身願望と合わせて考えてみると、全体的にはすでに述べたように自己のアイデンティティを肯定しているにしても、確信をもって自己のアイデンティティを肯定しているわけではないと見られる。

拡散の傾向がとくに低い項目は56, 57, 52, 51, 28, 24, などで人生と、現在とを肯定している項目がみられる。この傾向は82年入学生, 93年入学生ともほぼ同じである。

2 入学年度別の比較

82年入学生と93年入学生のアイデンティティの様相の異同について検討する。

(1) カテゴリーについて

図1に示されているように82年入学生と93年入学生の間で有意な差が認められるカテゴリーは「同一性確立」「同一性拡散」「時間的展望」「権威性」の4カテゴリーである。このうち82年入学生の方が拡散度が高いのは「同一性確立」(正確には82年入学生の「同一性確立度」が低い)と「権威性」の2つであり、他の2つのカテゴリーでは93年度入学生のほうが拡散度が有意に高くなっている。

注目すべき点は93年入学生は、82年入学性にくらべ「同一性確立」も「同一性拡散」の傾向も高くなっている。

93年入学生は自己を肯定する(一種のナルシズム)傾向が強まっているが、後にみるように学生のアイデンティティの構成内容の中核を構成するとみられる同一性拡散, 時間的展望, 理想性, 役割実験などでの拡散度が高くなっている。ただし、有意な差がみられるのは同一性拡散, 時間的展望の二つだけである。

(2) 項目についての差の検討

図3は93年入学生にくらべ82年入学生の方が拡散の程度が有意に高い項目を示している。有意差のある5項目中4項目が自分が入学したこの大学, および大学での専門にかかわるものである。82年入学生が入学した大学に不満をもっているというより, 93年入学生が入学し

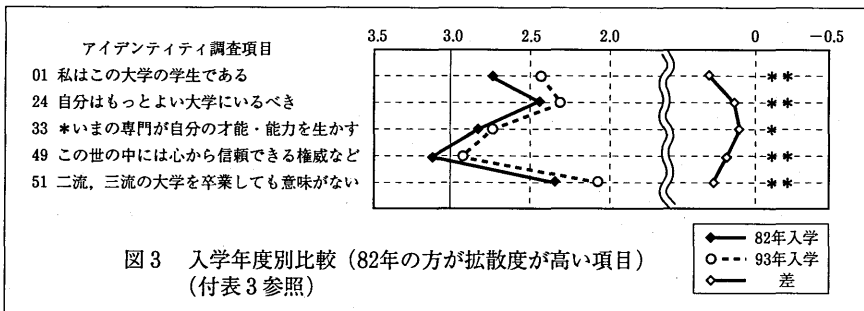
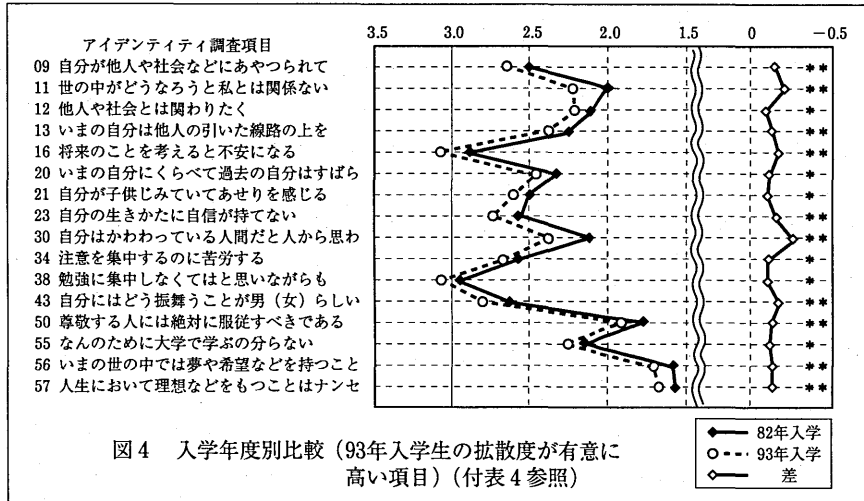


図3 入学年度別比較 (82年の方が拡散度が高い項目)  
(付表3参照)



た大学により満足するようになって来たと考えられる。

権威に対する不信感が82年入学生は3.00をこえていることも注目値する。

図4は82年入学生に対して93年入学生の方が拡散の程度が有意に高い項目を示したものである。82年入学生の方が拡散の程度が有意に高い項目が5項目であったのに対して、93年入学生の方が拡散度が高い項目は3倍以上の16項目である。その中で「同一性の拡散」に関するものが4項目、「時間的展望」に関するもの3項目、「理想性」に関するもの3項目、「勤勉強感」に関するもの2項目など複数の項目が含まれるカテゴリーがある。なお時間的展望と理想性は未来の領域にかかわるものである。

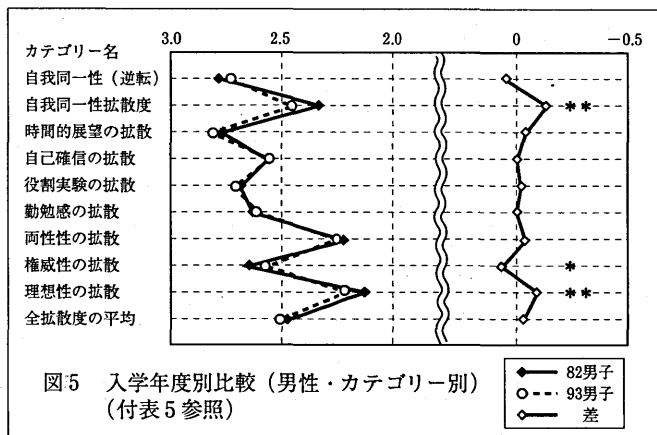
これらのことから93年入学生のほうが拡散の傾向が強くみられる。そしてすでにカテゴリーのところでも指摘したようにアイデンティティの中核ないしはそれに近い領域に関連している。

### 3 性別について

次に82年入学生と93年入学生の男性同士、女性同士でのアイデンティティの拡散についての比較検討をする。

#### (1) 男性間の比較

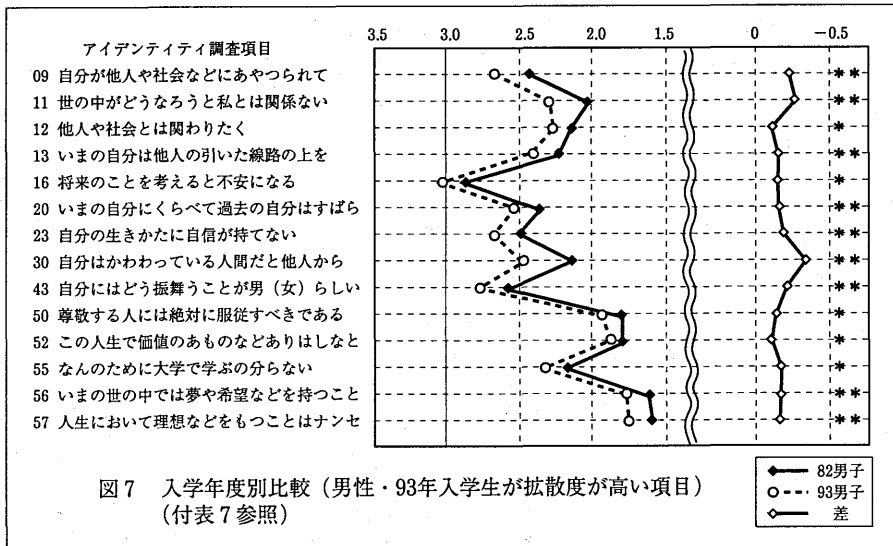
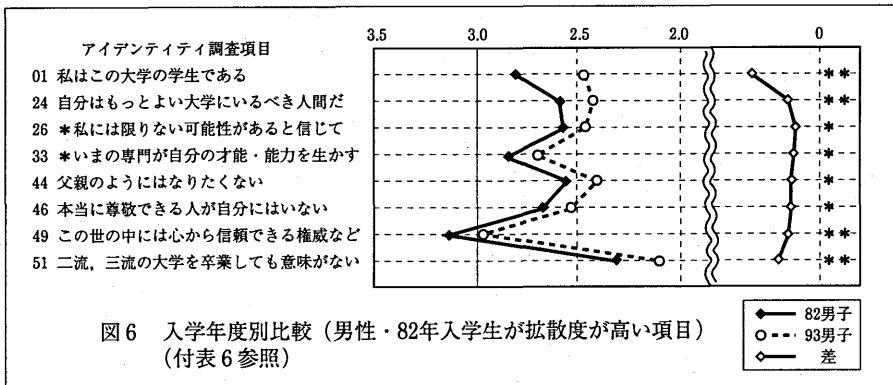
カテゴリーの面で検討してみると(図5参照)、有意な差がみられるのは「同一性拡散」「権威性」「理想性」のカテゴリーである。このうち「同一性拡散」は82年入学生の方が拡散の程度が高いが、他の2つのカテゴリーは93年入学生の方が有意に高い。これはす



に述べた全体的なパターンとよく似ている。

つぎに項目の面で差のあるものについてみると82年入学生のほうが有意に拡散度が高いのは8項目である(図6参照)。このうち項目44は本来は両性性の拡散をみるための項目であるが、他の2項目との関連で見ると、権威性にも関係があるといえよう。82年入学生のほうが権威を見出すこと、信頼することが出来にくかったようである。というよりはまだそういうものへの関心があったのであり、93年入学生になるとそれに対する関心がないのではないかとと思われる。

図7にみられるように93年入学生のほうが拡散度が有意に高い項目は14で、82年入学生の8項目の倍に近い。内容的にはやはり全体的な傾向のところでも述べたことが、ほぼ当てはまる。



(2) 女性間の比較

カテゴリーについてみると「同一性の確立」「理想性の拡散」の2つのカテゴリーで82年度生のほうが有意に拡散の程度が高い。しかし、この2つのカテゴリーとも5%レベルでの有意差であり、男性間ほどには大きな差ではない。



各項目でみると82年入学生のほうが拡散度が有意に高い項目は6項目で、男性の場合と同じような大学に関することから (01, 51) 社会と権威 (48, 49) が目立つ。

93年入学生のほうが拡散度が高い項目は4項目で、男性の場合とは異なり93年入学生のほうが拡散が有意に高い項目が少ない。内容的には勤勉感の拡散に関するものが目につく。

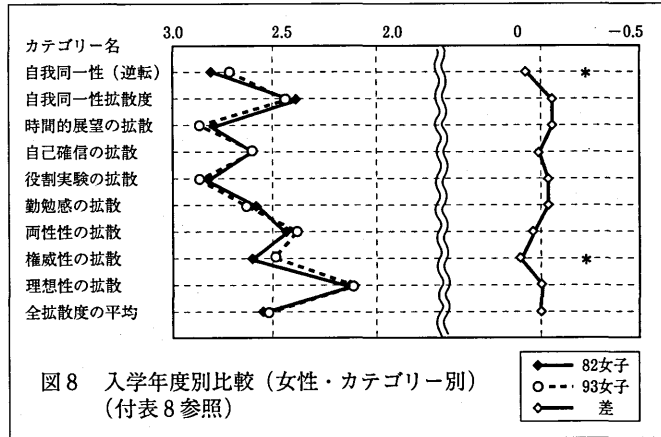


図8 入学年度別比較 (女性・カテゴリ別) (付表8参照)

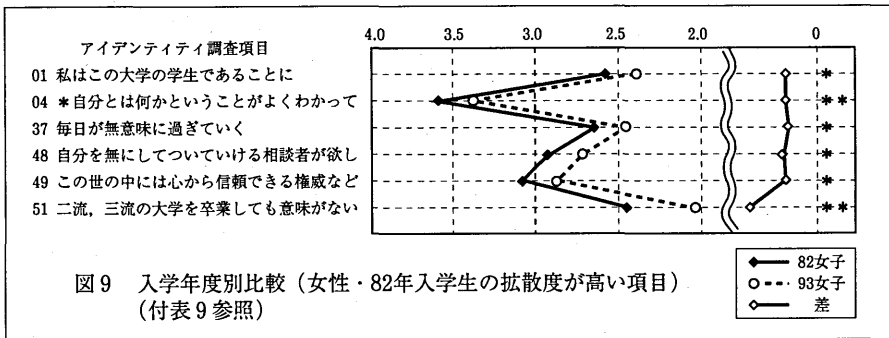


図9 入学年度別比較 (女性・82年入学生の拡散度が高い項目) (付表9参照)

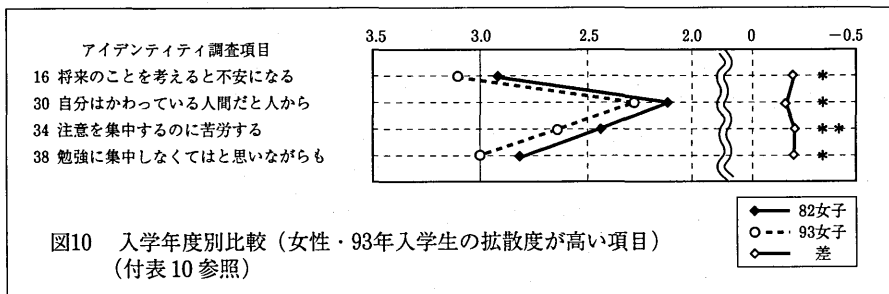


図10 入学年度別比較 (女性・93年入学生の拡散度が高い項目) (付表10参照)

#### 4 多変量解析による分析

##### (1) クラスター分析

被検者全員についてカテゴリー間のクラスター分類を行いその構造を探った。その結果「自我同一性の拡散」「全拡散の合計」「自己確信の拡散」「理想性の拡散」「時間的展望の拡散」「勤勉感の拡散」などが1つのクラスターとしてまとめられる。大学新入生のアイデンティティ拡散の中核を構成している要因と考えられよう。自己に対する信頼、理想や時間的展望などの「未来性」それにいまの課題にどれだけ打ち込んでいるかなどに関するもので、これらの事柄が全体的なアイデンティティ-アイデンティティ拡散を左右するものであると

考えられる。

「自我同一性確立（逆転）」「役割実験の拡散」「両性性の拡散」「権威性の拡散」がそれぞれ独立のクラスターを形成し、この順に中核クラスターから遠い位置に位置づけられる。両性性、権威性、役割実験などは彼らのアイデンティティの拡散にはあまり関係ないと見られる。

82年入学生と93年入学生のクラスターを比較してみると、おおまかな構造は93年度入学生のそれは、全員のものほとんど同一である。82年入学生のそれは「自我同一性の確立（逆転）」が中核クラスターにより近くなっている。

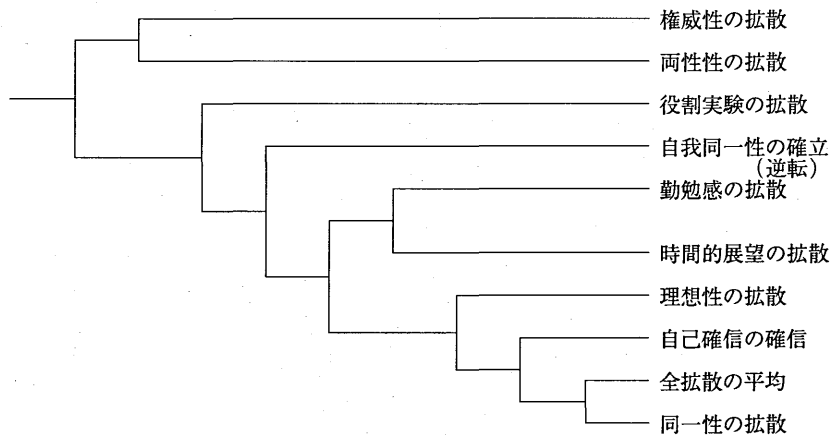


図11 カテゴリー間のクラスター

## (2) 因子分析

### ① 全被検者についての因子分析

57項目に10のカテゴリーを加えた67の事項について因子分析を行った。

回転後の各因子の寄与率などは表2に示すとおりである。探索的な試行の結果から両者とも8因子まで抽出した。8因子についてバリマックス回転を行い負荷量を産出した。なお8因子の合計の寄与率は82年入学生が46.4%、93年入学生が49.8%であり、93年入学生のほう

表2 寄与率

因子 No.	82年入学生			93年入学生		
	二乗和	寄与率	累積 (%)	二乗和	寄与率	累積 (%)
1	7.6690	11.3 (%)	11.3 (%)	8.5543	12.6 (%)	12.6 (%)
2	5.3498	7.9 (%)	19.1 (%)	5.8446	8.6 (%)	21.2 (%)
3	4.8849	7.2 (%)	26.3 (%)	4.0504	6.0 (%)	27.1 (%)
4	3.2717	4.8 (%)	31.1 (%)	3.6440	5.4 (%)	32.5 (%)
5	3.0762	4.5 (%)	35.7 (%)	3.4059	5.0 (%)	37.5 (%)
6	2.8960	4.3 (%)	39.9 (%)	3.2603	4.8 (%)	42.3 (%)
7	2.3861	3.5 (%)	43.4 (%)	2.8042	4.1 (%)	46.4 (%)
8	2.0405	3.0 (%)	46.4 (%)	2.2805	3.4 (%)	49.8 (%)

が高くなっている。

まず目につくのが「全拡散の合計の平均」のカテゴリーの因子負荷量が、両者とも第1因子から第8因子まで徐々に減少していることである。アイデンティティの拡散の要因として第1因子に属する項目、カテゴリーがより強く関連していることになり、因子ナンバーが上がるにつれて関連が小さくなるといえよう。

第1因子は両年度生ともほぼ同じような因子内容になっているが、有意と見られる項目、カテゴリー（因子負荷量 $\pm 0.30$ 以上）ともに負荷量が93年入学生のほうが高くなっている。

この第1因子は両者とも「自我同一性確立（逆転）」を中心とする因子である。それに加え「自己確信の拡散」「理想性」「時間的展望」などのカテゴリーが両者とも高い負荷量をもっている。項目の負荷量をもてこれらのカテゴリーに属する項目が高い負荷を示している。

この因子での82年入学生と93年入学生の違いは、負荷量3.00以上の項目数が82年入学生は6カテゴリーと15項目に対して93年入学生は8カテゴリーと20項目と断然多くなっている。また93年入学生ではこの因子で負荷量が3.00以下のカテゴリーは「両性性」と「権威性」の2カテゴリーであるのに対して、82年入学生ではこれに加え「勤勉感」「役割実験」の4カテゴリーである。93年入学生のほうがアイデンティティの拡散に多くのことが関連するようになってきているように思える。負荷量が相対的に高いものが多いことは93年入学生のほうが均質化してきているということであろう。

第2因子は「勤勉感の拡散」のカテゴリーで両者とも負荷量が高い。また「全拡散の平均」の負荷量はそれぞれ0.47であり、この因子もアイデンティティの拡散にかなり関連する因子であるといえよう。「自我同一性の確立（逆転）」「両性性」「権威性」の負荷は低い。「理想性」については82年入学生は0.18とかなり低いと93年入学生は0.32で一応の相関は認められる。

第3因子は「理想性」を中心とする因子で「全拡散の平均」の負荷量は0.40と0.32である。そのほか「同一性拡散」のカテゴリーとその関係する項目に相対的に高い負荷量をもつ項目があり、理想性もアイデンティティの拡散に関連する要因であるといえよう。

82年入学生と93年入学生を比較してみると82年入学生のほうが負荷が大きい。理想性がアイデンティティの拡散とより緊密な関係にあったのに対して、93年入学生になるとその結びつきが弱くなってきているのであろう。

第4因子は「両性性の拡散」に関わる因子であり、この因子における「全拡散の平均」の負荷量は両者ともに0.31でありいちおうの相関は認められる。82年入学生では「同一性拡散」「自己確信」のカテゴリーのそれぞれ1項目のみが有意な負荷量を示し、比較的単一の因子であるのにたいして、93年入学生では「時間的展望」「自己確信」のカテゴリー、項目との結びつきもみられる。男らしさ、女らしさに対する考え方が変わってきて、他の問題との関わりが生じてきたことである。

第5因子は「時間的展望」と「自己確信」のカテゴリーを中核として構成されている因子である。82年入学生は「同一性の拡散」の負荷量が有意とみられるが、93年入学生はその傾向は認められるが有意とはいきれない。93年入学生は「権威性」の負荷量がかなり高くなっている。

第6因子は「役割実験」のカテゴリーを中心とする因子であり、それに「同一性拡散」の

表3 因子負荷量(バリマックス回転)

	No.	項目名	82 年 入 学 生						
			1 因子	2 因子	3 因子	4 因子	5 因子	6 因子	
自我同一性(逆転)	01	21* 私はこの大学の学生である	-44	-03	00	-09	-00	-11	
	02	26* 自分には生きているという	-59	18	-21	15	02	03	
	03	27* 自分の行動は自分の意志で	-55	14	-03	17	25	05	
	04	03* 自分とは何かということが	-51	00	11	10	15	-01	
	05	09* 本当にやりたいことが何で	-63	10	-03	-03	-05	-08	
	06	25* 自分の生き方は他人や社会	-26	05	01	12	-11	14	
	07	54* 自分には明確な目標がある	-65	09	-24	-06	-10	-16	
自我同一性拡散	08	39 いまの生活はなりゆきまか	-29	39	-36	-15	-39	-16	
	09	04 自分が他人や社会などにあ	-20	03	00	11	37	-25	
	10	22 自分というものがいないよう	-30	20	-30	11	28	-23	
	11	38 世の中がどうなるかと私と	-05	11	-58	04	-05	00	
	12	28 他人や社会とは関わりたく	-08	11	-53	28	03	-01	
	13	34 いまの自分は他人の引いた	-27	08	-19	00	34	-35	
	14	14 自分がいやでたまらない	-22	31	-17	32	31	-26	
時間的展望	15	29 最近時間の過ぎるのがもの	20	07	09	03	28	-10	
	16	07 将来のことを考えると不安	-24	27	-06	09	34	-08	
	17	53* 目標に向かって着実に歩ん	-66	09	-09	-07	00	-14	
	18	01* 時とともに自分が進歩、成	-38	15	-15	08	18	08	
	19	45 つい億劫でやるべきことを	-04	54	-02	-09	08	-13	
	20	31 自分が子供じみていてあせ	-02	10	-09	-00	25	-10	
	21	56 自分が子供じみていて焦り	-10	27	-02	15	46	-13	
22	55 いまの自分には若さがない	-21	34	-14	19	25	-04		
自己確信	23	05 自分の生き方に自信がもて	-48	24	-06	16	37	-11	
	24	37 自分はずっとよい大学にい	-23	-03	-12	-04	06	-16	
	25	32 何をやっても他人がどう思	-00	30	-00	03	38	-23	
	26	46* 私には限りない可能性があ	-41	-01	-18	15	13	16	
	27	17 自分がいま望んでいるよう	-29	22	-25	12	26	-09	
	28	44 私のまわりには私と対等に	-11	10	-28	36	12	-09	
	役割実験	29	23 いまの自分とは全く違う自	-12	14	-14	12	17	-50
30		33 自分は変わっている人間だ	03	15	-01	18	-13	-50	
31		02 人から真面目な人間だと思	-08	-00	00	09	04	-50	
32		48 実際に何かをするより空想	-04	33	-19	18	09	-28	
33		50* いまの専門が自分の能力を	-35	01	-04	-10	00	-35	
勤勉感		34	51 注意を集中するのに苦勞す	-10	62	05	06	02	-04
		35	12 一つのことを打ち込むこと	-23	63	-05	07	01	-01
	36	13 何をやっても心の底から打	-18	44	-29	21	03	00	
	37	15 毎日が無意味に過ぎていく	-30	45	-29	09	10	-13	
	38	35 勉強に集中しなければと思	-11	64	01	03	08	-11	
	39	49 何かで一時的に熱中するこ	-06	62	-08	-02	00	-09	
	両性性	40	18 もし生まれかわれるとした	-06	-04	-02	35	04	-25
41		52 異性の友達とはほしくない	-06	-11	-27	42	22	07	
42		47 異性と話をしたり親しくす	-09	15	-17	50	23	03	
43		30 自分にはどのように振舞う	-10	18	07	45	26	03	
44		11 父親のようにはなりたくな	-04	06	-12	45	20	-21	
45		22 母親のようにはなりたくな	-03	09	-12	56	-20	-13	
権威性		46	06 本当に尊敬できる人が自分	-23	18	-26	19	-22	-03
	47	41* 何かにつけて相談にのって	-22	26	-05	16	-25	-04	
	48	40 自分を無にしてついて行け	-01	08	-01	-01	43	01	
	49	20 この世の中には心から信頼	-02	12	-08	05	-08	-00	
	50	57 尊敬する人には絶対服従	11	03	-18	00	43	06	
	51	19 二流、三流の大学を卒業し	-12	-08	-19	02	06	-06	
	理想性	52	08 この人生で価値のあること	-16	08	-67	11	00	01
53		43 私には確固とした人生観が	-40	19	-29	00	07	-06	
54		24 生きていくうえで何が重要	-35	16	-24	12	15	-10	
55		36 何のために大学で学のかわ	-42	17	-32	-02	-00	-19	
56		10 いまの世の中では夢や希望	-10	-01	-70	08	03	-04	
57		16 人生において理想など持つ	-06	03	-72	11	00	-07	
カテゴリ		58	自我同一性確立	94	-14	11	-07	-03	05
	59	自我同一性(逆転)	-94	14	-11	07	03	-05	
	60	自我同一性の拡散	-37	32	-52	17	32	-33	
	61	時間的展望の拡散	-35	49	-12	11	50	-18	
	62	自己確信の拡散	-48	25	-27	23	42	-17	
	63	役割実験の拡散	-22	24	-15	18	08	-82	
	64	勤勉感の拡散	-25	88	-16	11	06	-10	
	65	両性性の拡散	-12	11	-18	87	08	-18	
	66	権威性の拡散	-20	23	-28	16	09	-03	
	67	理想性の拡散	-42	18	-74	10	07	-12	
	68	全拡散の合計	-53	47	-40	31	25	-31	

(註 表中項目番号の後に\*のある項目は逆転項目であることを示す)

		93 年 入 学 生							
7 因子	8 因子	1 因子	2 因子	3 因子	4 因子	5 因子	6 因子	7 因子	8 因子
24	-49	-38	00	02	09	-07	03	08	49
06	-02	-53	-20	11	16	-19	-07	-00	01
-00	-07	-50	-18	19	20	-03	02	-02	11
-07	29	-44	-11	14	-14	-05	-06	-05	-14
05	19	-65	-07	09	07	03	11	10	-13
-14	-31	-17	07	-18	-00	-05	-07	00	09
01	10	-68	-10	08	16	06	13	07	-17
07	07	-32	-37	15	16	00	20	19	08
05	-00	-14	-18	28	23	07	34	-05	21
05	15	-29	-23	43	27	-20	25	-01	-04
-07	-15	-11	-17	-04	39	-11	08	08	24
-11	-29	-15	-19	19	32	-38	11	-09	16
03	-04	-30	-22	27	21	01	25	11	25
01	14	-26	-20	48	06	-27	25	05	-01
-03	07	15	-17	08	-06	02	-08	-02	-03
21	09	-20	-14	51	09	-01	12	14	-05
09	-10	-64	-12	17	10	02	08	07	00
-11	09	-38	-19	09	04	-12	-15	-06	-10
-00	03	-13	-48	23	-14	-10	08	05	-01
05	-27	-04	-18	24	13	-00	-03	02	30
-13	07	-09	-23	35	03	-27	08	-10	04
08	-11	-22	-31	35	14	-30	-00	-04	06
05	20	-41	-15	53	17	00	16	07	-05
33	-54	-13	-08	14	10	-02	07	15	58
03	21	-12	-27	48	-10	00	14	08	03
11	24	-30	-00	17	21	-12	-16	-08	-27
19	10	-33	-17	41	23	-13	03	10	-02
11	-26	-19	-03	29	36	-22	05	07	26
12	27	-23	-11	40	02	-10	37	05	-16
-14	-27	07	-14	-01	06	-13	46	-01	10
07	13	-03	-06	06	05	-02	45	-00	01
-11	-23	-13	-28	25	14	-26	26	-11	11
13	-17	-44	01	01	02	06	19	09	-00
04	00	-08	-64	09	10	-01	-08	01	03
03	00	-21	-66	04	18	-05	11	00	-09
12	-03	-27	-40	15	32	-17	19	12	00
10	07	-37	-36	37	22	-14	10	04	10
07	-05	-13	-58	23	06	06	04	12	-02
-00	08	-18	-63	-00	07	-06	11	04	09
24	09	-01	-04	16	04	-31	23	08	-18
-21	-16	-05	00	08	29	-48	-07	-07	07
-14	-03	-14	-11	29	20	-46	03	-05	05
08	10	-03	-20	23	03	-29	04	07	-21
14	02	-12	-06	-13	04	-34	20	45	11
11	01	-07	-09	-03	05	-32	08	48	17
33	10	-25	-12	05	20	-07	-05	47	-01
34	-05	-20	-05	01	-02	-09	-09	49	-08
32	-06	-00	-07	32	16	20	14	18	05
41	14	-07	-16	16	15	-22	03	27	03
16	-14	12	-03	26	23	04	-03	08	04
54	-17	-07	-03	19	28	-07	-02	25	34
13	-08	-22	-12	11	61	-16	-02	14	05
00	39	38	-30	27	16	06	17	09	-20
20	32	-34	-25	32	25	03	22	17	-20
05	-01	-42	-21	20	39	10	16	13	09
18	00	-17	-15	04	67	-11	01	03	03
10	-01	-21	-13	04	65	-15	04	06	06
-05	07	96	14	-10	-11	08	-02	-04	-08
05	-07	-96	-14	10	11	-08	02	04	08
01	-01	-37	-37	41	38	-19	36	06	21
04	-02	-36	-49	57	06	-19	00	01	06
26	-01	-45	-20	64	27	-13	07	11	16
03	-07	-28	-22	28	11	-17	69	00	01
09	01	-31	-82	21	23	-09	11	08	02
11	03	-13	-15	18	19	-71	19	34	-01
77	-06	-17	-16	34	34	-06	-02	65	11
17	18	-45	-29	26	68	-03	16	16	-06
23	-00	-51	-44	44	37	-25	25	22	08

カテゴリーが関連している。93年入学生がよりその傾向が強い。

第7因子は「権威性」の因子であり、82年入学生はこのカテゴリー単一で構成されているのに対して、93年入学生は「両性性」のカテゴリーとのむすびつきがみられる。

第8因子はこれとってまとめた内容を示してはいない

対象となった学生のアイデンティティ拡散の構造はエリクソンがあげた8つの側面を均等に含んでいるのではなく、「同一性の確立（逆転）」「自己確信の拡散」「時間的展望の拡散」「理想性の拡散」「勤勉感の拡散」などが比較的中核に位置づけられ、「役割実験の拡散」「両性性の拡散」「権威性の拡散」などは拡散全体とは強いつながりはもたず比較的独立に存在していると見られる。

## ま と め

本研究では1982年の入学生888名と、10年の間隔をおいて1993年の入学生1,043名に、57項目からなるアイデンティティの拡散を調べる質問紙による調査を実施し、両者の違いを調べた。

質問紙の57調査項目についての結果とこれを10のカテゴリーにまとめた結果との計67の事柄について分析を行った。結果は以下のようであった。

82年入学生93年入学生ともカテゴリーについては拡散と確立の中間値である3.00を越えて拡散の方向を示すものはなかったが、相対的には82年入学生のほうが同一性の確立度が低く、権威性、理想性での拡散が高くなっていた。

各項目で両者に有意な差のみられるものをみると、82年入学生のほうが有意に拡散の程度が高いものは、自分の入学した大学、および専攻する専門に関係するものが中心であった。すなわち、93年入学生のほうが入学した大学に相対的に満足するようになってきていることを示している。

93年入学生のほうが拡散の傾向が有意に高い項目は、82年入学生の3倍以上の16項目もあり拡散の傾向が強まっていた。これらの項目は同一性の拡散、時間的展望、理想性、勤勉感などのカテゴリーに属するものが多かった。

つぎに多変量解析によって両者の異同について検討した。まずカテゴリー間のクラスター分析を行った。その結果、「同一性拡散」「自己確信の拡散」「理想性の拡散」「時間的展望の拡散」「勤勉感の拡散」が1つのクラスターを形成していた。このことからこれらのカテゴリーがアイデンティティ拡散の中核に属するとみられる。「役割実験の拡散」「両性性の拡散」「権威性の拡散」などは、それぞれ独立したクラスターを形成している。82年入学生と93年入学生のそれを比較してみると93年入学生は全体の傾向とほぼ同一であるが、82年入学生では「自我同一性確立（逆転）」がより中核のクラスターに近づいている。

因子分析ではすでに述べた57項目に10カテゴリーを加えた67の事項についてセントロイド法によって8因子まで抽出し、バリマックス回転をおこなった。その結果各因子とも93年入学生のほうが負荷量が高かった。これは93年入学生のほうが均質化してきていることを示していると考えられる。

第1因子は両者とも「同一性確立（逆転）」を中心とするもので「自己確信の拡散」「理想性の拡散」「時間的展望の拡散」などのカテゴリーとそのいくつかの項目での負荷が高かつ

た。これらのものがアイデンティティ拡散とより強い関連をもつものと考えられる。

第2因子は両者とも「勤勉感の拡散」の категорияに関連するものでの負荷が高かった。

第3因子は「理想性の拡散」に関連するものであった。

以上の3つの因子は「同一性の拡散」「全拡散の平均」とその関係する項目との相関の程度からアイデンティティの拡散とかなりの関連をもつと考えられる。82年度生と93年度生を比較してみると大筋ではあまり違いがみられず、個々のcategory項目での負荷の違いがみられる。

以下第4因子「両性性の拡散」、第5因子「権威性の拡散」、第6因子「役割実験の拡散」、第7因子「両性性の拡散」、「権威性の拡散」はそれぞれ独立の因子として抽出され、これらはアイデンティティの拡散との相関は全体的にはあまり高くはないが、93年入学生のほうが相対的にはこれらの因子がアイデンティティの拡散の程度との関連がよりみられるようになっている。

### 参考文献

- 1 Erikson, E. H. 1950 *Childhood and society*. New York: Norton.
- 2 Erikson, E. H. 1959 *Identity and the life cycle*. *Psychological Issues*, 1-171.
- 3 鎌 幹八郎ほか 1984 *自我同一性研究の展望*, ナカニシヤ出版.
- 4 鎌 幹八郎ほか 1995 *アイデンティティ研究の展望 II*, ナカニシヤ出版.
- 5 大井 修三・返田 健・鈴木 壮 1985 *大学生の自我同一性に関する研究(1) - 自我同一性の確立に関連する生活史の要因 -* 岐阜大学教養部研究報告 第21号 1-29.
- 6 返田 健・大井 修三・鈴木 壮 1985 *大学生の自我同一性に関する研究(2) - 大学新入生の自我同一性の自我同一性 -* 岐阜大学教養部研究報告 第21号 31-45.
- 7 返田 健・大井 修三・鈴木 壮 1992 *大学生の自我同一性に関する研究(3) - アイデンティティ・ステイタスについて -* 岐阜大学教養部研究報告 第27号 1-18.
- 8 Douvan, E. and Adelson, J. 1966 *The Adolescent Experience*. John Wiley.
- 9 Marcia, J. E. 1966 *Development and validation of ego-identity status*. *Journal of Personality and Social Psychology*, 3, 551-558.
- 10 小此木啓吾 1978 「モラトリアム人間の時代」 中央公論社
- 11 山田和夫 1981 「キャンパス症候群」 弘文堂
- 12 栗原 彬 1983 「やさしさのゆくえ=現代青年論」 筑摩書房
- 13 小谷 敏(編) 1993 「若者論を読む」 世界思想社
- 14 博報堂生活総合研究所 1994 「調査年報1994 若者-まさつ回避世代」 博報堂

付表1 入学年度別比較(カテゴリー)

	82年入	SD	93年入	SD	差	tの値	危険率
カテゴリー							
自我同一性	2.78	0.56	2.72	0.55	0.06	2.47	0.006
自我同一性	2.34	0.59	2.45	0.64	-0.11	4.15	0.000
時間的展	2.77	0.49	2.83	0.51	-0.05	2.24	0.012
自己確信	2.57	0.55	2.58	0.57	-0.01	0.35	0.364
役割実驗	2.72	0.57	2.76	0.56	-0.03	1.45	0.074
勤勉感の	2.62	0.71	2.63	0.73	-0.01	0.28	0.390
両性性の	2.27	0.56	2.30	0.55	-0.02	0.98	0.162
権威性の	2.64	0.53	2.55	0.55	0.08	3.55	0.000
理想性の	2.11	0.58	2.17	0.63	-0.05	1.93	0.026
全拡散度	2.49	0.39	2.51	0.43	-0.01	0.88	0.189

付表2 入学年度別比較(全項目)

	82年入	SD	93年入	SD	差	tの値	危険率
01 私はこの	2.74	1.09	2.44	1.02	0.29	6.14	0.000
02 自分への	2.48	0.97	2.40	0.89	0.07	1.86	0.031
03 自分との	2.33	0.93	2.28	0.92	0.04	1.17	0.120
04 自分と	3.35	0.95	3.28	0.94	0.07	1.80	0.036
05 本当に	2.90	1.06	2.92	1.14	-0.01	0.32	0.373
06 自分への	2.97	0.83	3.00	0.74	-0.03	0.89	0.187
07 自分への	2.69	1.15	2.70	1.13	0.00	0.13	0.449
08 今の生	2.84	1.19	2.94	1.14	-0.09	1.76	0.038
09 自分が	2.49	1.10	2.64	1.07	-0.15	3.11	0.000
10 自分と	2.28	0.98	2.32	1.05	-0.03	0.85	0.196
11 世の中	2.01	0.96	2.23	0.99	-0.21	4.77	0.000
12 他人や	2.12	0.95	2.22	0.91	-0.09	2.24	0.012
13 他人ま	2.25	1.06	2.38	1.02	-0.13	2.74	0.003
14 自分が	2.37	1.06	2.44	1.08	-0.06	1.85	0.089
15 最近時	3.21	1.17	3.23	1.11	-0.02	0.41	0.342
16 将来の	2.89	1.13	3.07	1.17	-0.17	3.36	0.000
17 *目標	2.93	0.96	2.86	0.94	0.06	1.42	0.078
18 *時とお	2.46	0.84	2.47	0.85	-0.01	0.26	0.396
19 ついま	3.28	1.08	3.31	1.08	-0.02	0.49	0.311
20 ついま	2.34	1.03	2.47	1.03	-0.12	2.47	0.005
21 自分が	2.50	1.05	2.61	1.05	-0.10	2.28	0.011
22 いまの	2.57	1.11	2.59	1.07	-0.01	0.40	0.345
23 自分への	2.58	1.06	2.74	1.10	-0.16	3.30	0.000
24 自分への	1.84	0.91	1.84	0.86	0.00	0.02	0.491
25 なにを	3.28	1.08	3.34	1.04	-0.06	1.33	0.091
26 *私に	2.65	1.05	2.58	1.02	0.07	1.63	0.051
27 自分が	2.59	1.00	2.63	1.03	-0.03	0.67	0.250
28 私いま	1.84	0.91	1.84	0.96	0.00	0.02	0.491
29 いまの	3.21	1.23	3.19	1.21	0.02	0.41	0.341
30 自分への	2.13	1.01	2.40	1.00	-0.26	5.81	0.000
31 人から	2.93	1.07	2.96	1.10	-0.02	0.55	0.291
32 実際等	2.50	1.06	2.52	1.03	-0.01	0.37	0.355
33 *いま	2.84	1.06	2.74	0.90	0.10	2.29	0.011
34 注意を	2.58	1.02	2.68	1.01	0.10	2.07	0.019
35 一つを	2.38	1.04	2.38	1.09	0.00	0.10	0.459
36 何をや	2.33	1.08	2.24	1.08	0.08	1.64	0.050
37 毎日が	2.64	1.13	2.54	1.14	0.09	1.86	0.031
38 勉強に	2.59	1.12	3.06	1.08	-0.10	2.08	0.018
39 何かに	2.85	1.12	2.86	1.09	-0.01	0.32	0.375
40 もし生	2.53	1.32	2.55	1.27	-0.02	0.45	0.327
41 異性と	1.57	0.76	1.61	0.77	-0.03	1.06	0.144
42 異性と	2.14	1.00	2.13	1.01	0.00	0.20	0.420
43 自分への	2.46	1.00	2.81	0.96	-0.16	3.64	0.000
44 父親の	2.51	1.22	2.41	1.19	0.10	1.94	0.026
45 母親の	2.26	1.05	2.28	1.05	-0.01	0.37	0.356
46 本当に	2.60	1.31	2.49	1.28	0.10	1.79	0.036
47 *なに	3.18	1.21	3.11	1.18	0.07	1.38	0.083
48 自分を	2.76	1.24	2.73	1.14	0.02	0.51	0.304
49 この世	3.12	1.07	2.93	1.11	0.18	3.68	0.000
50 尊敬す	1.80	0.89	1.93	0.88	-0.12	3.04	0.001
51 二流三	2.36	1.13	2.09	1.06	0.26	5.35	0.000
52 この人	1.75	0.92	1.82	0.92	-0.06	1.62	0.052
53 私には	2.88	1.12	2.79	1.06	0.08	1.69	0.045
54 生きている	2.71	0.97	2.73	1.02	-0.01	0.28	0.391
55 生きている	2.17	1.00	2.27	1.01	-0.10	2.24	0.012
56 ないま	1.61	0.84	1.73	0.90	-0.11	2.81	0.002
57 人生に	1.59	0.79	1.70	0.80	-0.11	3.14	0.000



付表3 82年入学生の拡散が高い項目

	82年入	SD	93年入	SD	差	tの値	危険率
01 私はこ	2.74	1.09	2.44	1.02	0.29	6.14	0.000
24 自分は	2.45	1.12	2.32	1.05	0.13	2.77	0.002
33 *いま	2.84	1.06	2.74	0.90	0.10	2.29	0.011
49 この世	3.12	1.07	2.93	1.11	0.18	3.68	0.000
51 二流三	2.36	1.13	2.09	1.06	0.26	5.35	0.000

付表4 93年入学生の拡散が高い項目

	82年入	SD	93年入	SD	差	tの値	危険率
09 自分が	2.49	1.10	2.64	1.07	-0.15	3.11	0.000
11 世の中	2.01	0.96	2.23	0.99	-0.21	4.77	0.000
12 他人や	2.12	0.95	2.22	0.91	-0.09	2.24	0.012
13 いまの	2.25	1.06	2.38	1.02	-0.13	2.74	0.003
16 将来の	2.89	1.13	3.07	1.17	-0.17	3.36	0.000
20 いまの	2.34	1.03	2.47	1.03	-0.12	2.47	0.005
21 自分が	2.50	1.05	2.61	1.05	-0.10	2.28	0.011
23 自分の	2.58	1.06	2.74	1.10	-0.16	3.30	0.000
30 自分は	2.13	1.01	2.40	1.00	-0.26	5.81	0.000
34 注意を	2.58	1.02	2.68	1.01	-0.10	2.07	0.019
38 勉強に	2.95	1.12	3.06	1.08	-0.10	2.08	0.018
43 自分に	2.64	1.00	2.81	0.96	-0.16	3.64	0.000
50 尊敬す	1.80	0.89	1.93	0.88	-0.12	3.04	0.001
55 なんの	2.17	1.00	2.27	1.01	-0.10	2.24	0.012
56 いまの	1.61	0.84	1.73	0.90	-0.12	2.81	0.002
57 人生に	1.59	0.79	1.70	0.80	-0.12	3.14	0.000

付表5 入学年度別比較(男性・カテゴリー)

	82男子	SD	93男子	SD	差	tの値	危険率
カテゴリ							
自我同一	2.78	0.56	2.73	0.56	0.05	1.62	0.053
自我同一	2.32	0.59	2.46	0.67	-0.14	4.06	0.000
時間的展	2.77	0.51	2.81	0.55	-0.04	1.50	0.066
自己確信	2.55	0.56	2.56	0.58	0.00	0.28	0.391
役割実験	2.69	0.57	2.71	0.57	-0.02	0.79	0.214
勤勉感の	2.63	0.72	2.62	0.76	0.00	0.20	0.421
両性性の	2.21	0.55	2.25	0.55	-0.03	1.14	0.127
権威性の	2.65	0.54	2.58	0.56	0.07	2.30	0.010
理想性の	2.12	0.62	2.21	0.69	-0.08	2.35	0.009
全拡散度	2.48	0.40	2.51	0.44	-0.02	1.02	0.153

付表6 男性・82年入学生の拡散が高い項目

	82男子	SD	93男子	SD	差	tの値	危険率
01 私はこ	2.80	1.10	2.47	1.05	0.33	5.55	0.000
24 自分は	2.59	1.15	2.42	1.11	0.16	2.64	0.004
26 *私に	2.58	1.08	2.46	1.05	0.12	2.07	0.019
33 *いま	2.83	1.08	2.69	0.92	0.13	2.35	0.009
44 父親の	2.56	1.22	2.41	1.18	0.14	2.11	0.017
46 本当に	2.68	1.34	2.54	1.30	0.14	1.92	0.027
49 この世	3.13	1.12	2.97	1.18	0.16	2.55	0.005
51 二流三	2.32	1.14	2.11	1.09	0.21	3.43	0.000

付表7 男性・93年入学生の拡散が高い項目

	82 男子	SD	93 男子	SD	差	t の 値	危険率
09 自分が	2.43	1.10	2.67	1.11	-0.23	3.77	0.000
11 世の中	2.03	1.00	2.30	1.08	-0.27	4.66	0.000
12 他人や	2.14	0.98	2.27	0.95	-0.12	2.22	0.013
13 いまの	2.24	1.07	2.40	1.06	-0.16	2.58	0.004
16 将来の	2.88	1.14	3.03	1.21	-0.15	2.28	0.011
20 いまの	2.37	1.05	2.54	1.08	-0.16	2.73	0.003
23 自分の	2.50	1.05	2.68	1.13	-0.18	3.03	0.001
30 自分は	2.14	1.02	2.48	1.00	-0.33	5.96	0.000
43 自分に	2.57	0.97	2.77	0.98	-0.20	3.70	0.000
50 尊敬す	1.81	0.93	1.94	0.91	-0.13	2.54	0.005
52 この人	1.80	0.97	1.89	0.97	-0.09	1.74	0.040
55 なんの	2.19	1.02	2.34	1.06	-0.14	2.54	0.005
56 いまの	1.62	0.89	1.79	0.95	-0.16	3.23	0.000
57 人生に	1.61	0.84	1.77	0.86	-0.15	3.34	0.000

付表8 入学年度別比較 (女性・カテゴリー)

	82 女子	SD	93 女子	SD	差	t の 値	危険率
カテゴリ							
自我同一	2.79	0.55	2.70	0.54	0.08	1.99	0.023
自我同一	2.39	0.58	2.44	0.61	-0.05	1.15	0.126
時間的展	2.78	0.44	2.84	0.46	-0.05	1.49	0.068
自己確信	2.60	0.52	2.59	0.57	0.01	0.31	0.378
役割実験	2.81	0.56	2.84	0.55	-0.02	0.47	0.316
勤勉感の	2.58	0.68	2.61	0.69	-0.03	0.55	0.292
両性性の	2.43	0.55	2.38	0.55	0.04	1.10	0.135
権威性の	2.59	0.52	2.48	0.53	0.10	2.25	0.005
理想性の	2.12	0.54	2.11	0.56	0.00	0.21	0.417
全拡散度	2.53	0.37	2.51	0.41	0.01	0.46	0.323

付表9 入学年度別比較 (女性・82年入学生の拡散が高い項目)

	82 女子	SD	93 女子	SD	差	t の 値	危険率
01 *私は	2.59	1.06	2.39	0.97	0.19	2.29	0.010
04 *自分	3.58	0.89	3.37	0.87	0.20	2.85	0.002
37 毎日が	2.65	1.09	2.46	1.05	0.18	2.12	0.017
48 自分を	2.93	1.21	2.72	1.11	0.21	2.21	0.013
49 この世	3.08	0.95	2.88	1.02	0.20	2.55	0.005
51 二流三	2.46	1.10	2.04	1.00	0.41	4.78	0.000

付表10 女性・93年入学生の拡散が高い項目

	82 女子	SD	93 女子	SD	差	t の 値	危険率
16 将来の	2.92	1.11	3.11	1.13	-0.19	2.11	0.017
30 自分は	2.12	0.99	2.28	0.98	-0.15	1.96	0.024
34 注意を	2.44	0.90	2.64	0.97	-0.20	2.71	0.003
38 勉強に	2.82	1.05	3.01	1.02	-0.19	2.24	0.012